C

硫黄島

熊野神社と日本史

熊野神社は、和歌山にある熊野三山の祭神を祀った神社。硫黄大権現宮とも呼ばれ、八朔太鼓踊りⒶや九月踊りⒷなど硫黄島の祭祀に深く関わる。建立約千年の熊野神社は日本史にたびたび登場し、島の営みを世に残してきた。

建立は平安時代の一七七年。俊寛とともに硫黄島に流刑となった平康頼と藤原成経が、帰京を願い、熊野の神々を分霊してこの地に祭った。翌七八年に赦免船が来て成経と康頼は京へ戻る。翌七九年、残された俊寛は絶食して自害した。

硫黄島の伝承では、俊寛の死から六年後の一一八五年、源氏から逃れた八歳の安徳帝が硫黄島に来島する。一二〇二年に二十五歳になった安徳帝は、熊野神社の境内に大宮を造営して、黒木御所から移り住む。大宮の奥には三種の神器Ⓒが祭られた。また、大宮が後世に残るようにと翌三年には石の鳥居が設けられた。家来が石探しに出かけ、大分で偶然出会った平有盛と平行盛（※平家物語では二人は既に亡くなっている）の寄進で加工した石が島に運ばれたという。

次に熊野神社が歴史に登場するのは室町時代で、僧桂庵玄樹は、一四九九年に島津忠昌が社殿を修復したと記している。また一五九八年朝鮮の役で安徳帝の末裔、長濱権之丞吉延が島津義弘を救った際には、多くの奉納品が贈られた。社殿の修理費も一八三九年まで計五回分が島津家より出された。

社殿は老朽化で一九八七年に改築されⒹⒺ、長い歴史の痕は石の鳥居や灯籠に残る。

思い出話

「古い社殿の左手奥の広場は、八朔踊りの踊り手が中休みのときに水浴びする場所でした。あと、社殿に古い刀が納めてあって、裏手から内緒で持ち出してチャンバラしてました。」

硫黄島地区　七〇代　男性

1

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 元日 旧 11/29
2 旧 11/30	3 新月 旧 12/1	4 旧 12/2	5 旧 12/3	6 旧 12/4	7 旧 12/5	8 旧 12/6
9 旧 12/7	10 成人の日 旧 12/8	11 旧 12/9	12 旧 12/10	13 旧 12/11	14 旧 12/12	15 旧 12/13
16 旧 12/14	17 旧 12/15	18 満月 旧 12/16	19 旧 12/17	20 旧 12/18	21 旧 12/19	22 旧 12/20
23 旧12/21	24 旧12/22	25 下弦 旧 12/23	26 旧 12/24	27 旧 12/25	28 旧 12/26	29 旧 12/27
30 旧12/28	31 旧12/29					